



# 応募資格・提出方法

## テーマ

スポーツにかんするすべてのこと。スポーツをする人(選手)、見る人・応援する人(観客)、スポーツをする場・楽しむ場(スタジアムなど)、スポーツで使われる物(ボールなど)、未来のスポーツなど。種目は単独でも複数(サッカーとラグビー、など)でもかまいません。

## 募集要項

注意事項ならびに、応募資格、応募フローなど詳細は下記URLまたはQRコードにてご確認ください。

## パラリンアートカップ2019公式HP

<https://www.asahi.com/sports/events/pacup/#apply>



## 応募フロー

### 作品制作 ▶▶▶ 応募フォームより応募

- ※応募フォームは公式HPからアクセス願います。
- ※応募フォームからの応募が難しい方は、パラリンアートカップ2019運営事務局(03-5565-7279)にご相談ください。
- 2次審査通過者は原画を下記住所に発送をお願いします(着払い)  
〒104-0061 東京都中央区銀座4-14-7-301 [パラリンアートカップ2019運営事務局]
- ※10月中旬頃に該当者のみ運営事務局より詳細を連絡致します。
- ※原画は返却しません。また原画の著作権は主催者に帰属します。
- ※2次審査通過後、通過者はパラリンアートにアーティスト登録をさせていただきます。
- ※[パラリンアートへのアーティスト登録]については、[paralymart.or.jp](http://paralymart.or.jp) をご覧ください。
- ※当選作品、優秀作品は商品化する場合が御座います。そのための改変に応じられる作品をお送りください。商品化等により売上が発生した場合、当社団契約に沿った報酬をお支払い致します。

## 提出期間

2019年5月1日(水)~2019年9月20日(金) 必着

## 審査の流れ(予定)

### 1次・2次審査 ▶▶▶ 最終審査 ▶▶▶ 結果発表

10月中旬まで 11月初旬 表彰式(12月初旬)後に公式サイトにて

【著作権・個人情報の取扱いについて】 ●応募時に記入いただいた個人情報は、主催者及び事務局にて共有させていただきます。●主催者の個人情報保護方針及び個人情報の取扱いについては、主催者ホームページに記載しております。●本企画の審査結果に関わらず、応募作品は広告宣伝等の目的で、主催者及び事務局の印刷物、ホームページなどに使用される場合があります。その際は個人情報を明記させていただく場合があります。●本企画にかんする事業実施・運営に関する業務の一部を委託する場合、主催者が適切な監督を行う業務委託先に個人情報の預託を行います。

## 主催、協力企業等

- 【主催】一般社団法人 障がい者自立推進機構 パラリンアート事務局
- 【後援】厚生労働省、観光庁(予定)
- 【協力】日本プロサッカー選手会、日本バスケットボール選手会、(予定含む) 日本ラグビーフットボール選手会、日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)、ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ(Bリーグ)、全国特別支援学校長会
- 【メディアパートナー】朝日新聞社、日本経済新聞社

## 問合せ(質問等は下記まで)

パラリンアートカップ2019運営事務局

TEL: 03-5565-7279 受付時間 10:00~17:00(土日祝日及び8月14~16日を除く)

〒104-0061 東京都中央区銀座4-14-7-301

[パラリンアートカップ2019運営事務局]

MAIL: [paralymartcup2019@jmcom.co.jp](mailto:paralymartcup2019@jmcom.co.jp)

<http://www.asahi.com/sports/events/pacup/>

パラリンアートカップ2019

## 審査員(予定、順不同)



武蔵野美術大学 名誉教授 遠藤彰子

漫画家 高橋陽一

書家 金澤翔子

日本障がい者サッカー連盟会長 北澤豪

日本アンパティサッカー協会最高顧問 セルジオ越後

漫画家 くらしいく子

障がい者自立推進機構 理事 セイン・カミュ

お笑い芸人 南海キャンディーズ しずちゃん

女優 若月佑美

(その他、日本プロサッカー選手会、日本バスケットボール選手会、日本ラグビーフットボール選手会など)

## 賞内容(2019年)

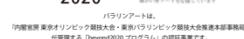
※賞内容は予告なく変更される場合があります。

厳正な審査を経て選ばれた上位受賞者には、サッカー、バスケットボール、ラグビーに関連した賞を用意しています。その他、審査員に関連した個人賞を用意しています。受賞内容は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

- ・グランプリ(最優秀作品)
- ・準グランプリ
- ・審査員個人賞
- ・サッカー部門賞(現役のJリーグ選手らが審査)
- ・バスケットボール部門賞(現役のBリーグ選手らが審査)
- ・ラグビーフットボール部門賞(現役のラグビー選手らが審査)
- ・損保ジャパン日本興亜賞

過去の「パラリンアート・サッカーアートコンテスト」「パラリンアートカップ」でグランプリ(最優秀賞)を受賞された方は、今回以降のグランプリ(最優秀賞)の選考対象外になります。

## [トップスポンサー]



パラリンアートは、パラリンアート・協会(東京都港区)が主催する「Beyond2020プログラム」の協賛事業です。

検索



主役は、障がい者と障がい者アート

# SOMPO

# パラリンアートカップ 調和と挑戦の世界へようこそ

アートとスポーツ、障がい者とアスリートの調和が生み出す豊かな世界がそこにはあります。スポーツの力で障がいを持つ方々の挑戦を応援しようと誕生して、4回目を迎えるアートコンテスト。東京オリンピック・パラリンピックを超えて未来に広がるアート×スポーツの可能性にご注目ください。



2019年の募集要項は裏面をご覧ください。

# SOMPO パラリンアートカップの歴史

アートとスポーツの競演をみんなが応援  
フィールドはサッカー、バスケットボール、そしてオールスポーツへ

2016年に日本プロサッカー選手会有志の「自分たちの力で障がい者アートを応援したい」という思いから、新しい形のアートコンテストとしてスタート。サッカー選手会に続いてバスケットボール、ラグビー選手会も加わり、賛同の輪はアート界、スポーツ界、芸能界へと広がってきました。(敬称略)



アスリート自身が選考に加わるユニークなコンテストです

## 歴代の主な審査員 (五十音順)

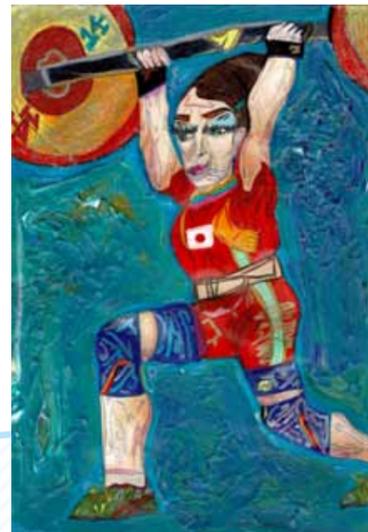
- 遠藤彰子 (武蔵野美術大学名誉教授)
- 岡部あおみ (美術評論家)
- 金澤翔子 (書家)
- 北澤豪 (日本障がい者サッカー連盟会長)
- くじらいいく子 (漫画家)
- しずちゃん (南海キャンディーズ)
- セルジオ越後 (サッカー評論家/日本アンパティサッカー協会最高顧問)
- 高橋陽一 (漫画家)
- 宮西達也 (絵本作家)
- 若月佑美 (タレント/女優)



## 2016 SOMPO パラリンアート・サッカーアートコンテスト

テーマ/サッカー 応募/1,862作  
[グランプリ] 「未来のサッカースタジアム」  
飯山太陽 (栃木県)

[準グランプリ]  
「サッカーボール」 村井玲王 (北海道)  
「サッカーハリケーン」 新井田祐子さん (北海道)  
「わくわくサッカー」 高樽和貴さん (高知県)  
協力/日本プロサッカー選手会



主な賞  
グランプリ/準グランプリ/  
サッカー、バスケットボール、  
ラグビー各部門賞/  
審査員個人賞/  
損保ジャパン日本興亜賞  
(都道府県賞)

## 2017 SOMPO パラリンアートカップ

テーマ/サッカー、バスケットボール  
応募/758作

[グランプリ] 「みんなでなかよくサッカーしよう」  
カミジョウミカ (長野県)

[準グランプリ]  
「Football orchestra」 鈴木崇雅 (茨城県)  
「未来のバスケットコート」 飯山太陽 (栃木県)  
「太古の昔よりキックオフ」 HARUMARU (岡山県)  
協力/日本プロサッカー選手会、日本バスケットボール選手会



## 2018 SOMPO パラリンアートカップ

テーマ/すべてのスポーツ  
応募/854作

[グランプリ] 「栄光のまなざし」  
飯島純子 [画号 舞櫻] (茨城県)

[準グランプリ]  
「大リーグボール」 工藤由記雄 (岩手県)  
「めざせ ゆめのオリンピックへ!」 オイヌマナミカ (秋田県)  
協力/日本プロサッカー選手会、日本バスケットボール選手会、  
日本ラグビーフットボール選手会

## SOMPO パラリンアートカップのひと

コンテストは受賞者の生活を変え、意識を高めます。4人の受賞者の現在を各地にたずねました。

### つらぬく意外な表現 アートカフェで活躍



飯山太陽さん  
栃木県益子町在住

スタジアムへの道にあるしょうゆの瓶や紙くず。精緻という言葉を超えた細かい絵付け。陶器で名高い益子町に暮らす飯山さんの2016年グランプリ作品は審査員の目を奪いました。全体の構図は書きはじめから浮かんでいて、細部は人びとが思わず目を留めるような意外な要素を入れているそう。感覚と計算の調和による独特の作風です。知的障害と診断されたのは、小学生のとき。計算は苦手でしたが、絵は物心ついたころからいくつものキャラクターを生み出してノートに描きつけてきました。グランプリ受賞後は、栃木県のアートコンペなどでも優勝。3月で特別支援学校を卒業し、4月からは県内のアートカフェで働いています。「受賞で活動の場が広がったので、さらに大きくしていきたいです」

### 出合いが広がり、 人生が変わりました



カミジョウミカさん  
長野県安曇野市在住

自宅前には北アルプスの壮大なパノラマが広がっていますが、カミジョウさんが目にするのは週に一度の通院時だけ。「表に出かける時間があつたら、絵を描いていたい」からです。先天性の骨の異状で、14歳から車椅子生活に。国籍や人種もさまざま、動物までもが一つのボールを囲む地球規模の平和を表現した作品で、2017年グランプリに輝きました。それからは取材や仕事の依頼が増え、「人との出合いが広がって、人生が変わりました」。受賞後の大きな仕事の一つが横浜駅西口のフードコートの壁画。ユーラシア大陸をテーマに描いた絵が人びとの目を楽しませています。いま関心があるテーマが人体で、脳の中を想像して絵付けをする毎日。独特な発想はジャンルを超えて広がるばかりです。

### 独特の画法磨き 初の個展も開催



飯島純子さん  
茨城県つくばみらい市在住

つくばエクスプレスの駅からほど近い自宅には8年前から書きためた数百点の絵が飾られ、さながらギャラリーのよう。中学から不登校になり、うつ病、摂食障害などを併発した飯島さんが絵に生きがいを求めたのは30代半ば。主治医のアドバイスをきっかけに人物画に取り組み、化粧品も採り入れた独自の手法を磨いてきました。2018年2月には、サッカーのカズ選手を描いて入選したパラリンアートカップ2017入賞作など50点を披露する初の個展を茨城県内で開催。続いて重量挙げをテーマにした作品で、見事に2018年グランプリを射止めました。授賞式後に体調を崩して数カ月におよぶ入院生活を送りましたが、絵に対する意欲は衰えていません。「スポーツ選手のようにひたむきに絵に向き合い、感動と感謝を伝えていきたいと思っています」

### 自信と活力を取り戻した受賞作



さくらさん  
横浜市在住

2018年損保ジャパン日本興亜賞を受賞した神奈川県のおさくらさんは、東京都内の会社に勤務しながら、アーティストとして活動しています。受賞作はサッカーの熱を焼きつけた「熱気」。中学2年で自閉症の診断を受けて支援学級へ移ることに。そこで自信を取り戻すためのすべが、小さい時から好きな絵でした。市内のコンクールなどで入賞し、パラリンアートカップでも賞を獲りましたが、1年目は落選。悔しさを翌年に晴らしました。趣味は友達と行くカラオケ。そこでも絵のヒントを自然と求めているそうです。「絵は私の活力。アーティストさくらをもっと知ってもらうために、心を打つ作品を描き続けたいです」



### 【「パラリンアート」とは】

(一社) 障がい者自立推進機構が運営する、障がい者の社会参加と経済的自立を推進する取り組みです。本取り組みを企業・団体へ提案し、絵画展示、著作権利用、イベント、コンペなどを実施し、パラリンアート所属アーティストの作品を多種多様な形で活用いただいております。「パラリンピアンといえば世界で活躍するスポーツ選手たち」というイメージがあるように、「パラリンアートといえば世界で活躍するアーティスト集団」となるよう、本イベント含めて様々な展開をおこなっています。